

# 山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi  
Veterinary Medical Association

第 725 号 令和 3 年 10 月

## 日本獣医師会の最近の動向

会長理事 田 中 尚 秋

令和 3 年 9 月 28 日、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として 19 都道府県に発令中の緊急事態宣言と 8 県に適用中のまん延防止等重点措置は 9 月 30 日で全面解除することが政府により発表されたが、先行き不透明感がまだまだ強かった時期に、10 月 1 日(金)開催予定の今年度の全国獣医師会会長会議は書面開催とすることが決定されていた。東京における新規感染者数は減少しているものの、まだ楽観視することは早計で、第 6 波の到来も懸念されているだけに賢明な選択であったと思料している。この会議は、2021 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”の前日に開催予定であったが、同イベントも中止となり、昨年度に続いての書面開催となった。

(公社)日本獣医師会(以下「日獣」)の第 4 回理事会が 9 月 22 日(水) Web 併用で開催されたので、これら資料や日本獣医師会雑誌等を基に最近の日獣の動向についてお知らせしたい。

**新型コロナウイルス感染症への対応**については、令和 3 年 6 月 30 日付け事務連絡をもって内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長から「催物の開催に係る事前相談等の際のフォーマット等について」が各都道府県知事等に通知され、多くの人が参集する催物を開催する場合は、基本的に当該フォーマットに従い、担当部局への事前相談等が求められている。日獣主催で開催される獣医学術学会年次大会等の催物等、全国的な移動を伴うイベント若しくは参加者が 1,000 人を超えるような催しを開催する場合は、基本的に、開催 2 週間前までに開催場所の都道府県の防災危機管理局(新型コロナ対策コールセンター)等担当部局への事前相談・資料の提出が求められることになっている。来年度このコロナ禍の状況が改善されていなければ、本会引受けとなる「獣医学術中国地区学会」はこのフォーラムに従って資料提出・事前相談等しながら進めることが求められると思われるので留意しておきたい。

日獣では、**小動物臨床現場における新型コロナウイルス感染症防御の取組み**として、犬・猫を対象とした新型コロナウイルス検査体制の構築を目指し、今後、関係機関と連携した犬・猫の全国的な検査体制の確立を進めるため、令和 3 年度から国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED 研究班「愛玩動物由来人獣共通感染症に対する検査及び情報共有体制の構築」)による全国的な検査及び情報共有体制の実現に向けた取組に協力することとしているとのことである。

「新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)感染疑い犬・猫の診療・検査簡易マニュアル」で示された概要によると、\*SARS-CoV-2 は飼い主から犬や猫への感染が報告されているが、犬や猫から飼い主への感染は報告されていない。\*飼い主から犬や猫への感染は最大 40% の家庭で起こっている可能性がある。\*犬の多くは無症状、猫では呼吸器疾患を起こすことがある。今のところ、SARS-CoV-2 感染による症状で来院することはないと考えられる。\*犬や猫の死亡例は報告されていない。\*診療時には PPE が必要であり、入院時には隔離が必要である。\*日本では犬猫用ワクチンや治療薬は使用されていない。\*新たな変異株の出現により状況は変わる可能性がある、等が示されている。また、SARS-CoV-2 の検査については、獣医療ネットワークの構築という構想が検討されており、実現すれば、全国レベルで疾患を把握することができるようになり、動物病院では全国の疾患発生状況を把握でき、診療に生かせるなど大きなメリットとなるであろうとされている。

**日本獣医師会雑誌**については、前半の「会報誌」部分と後半の「獣医学術学会誌」部分の二部構成で発行されているが、今回、後半部分に掲載されている「学術学会誌」部分をオンラインジャーナルへ一本化し、前半の「会報誌」部分については、これまで同様に紙媒体での冊子発行を継続するとのことである。これで、学術論文の公開をオンライン版に一本化することで、掲載本数を制限することなく採用後順次公開することが可能になると期待されている。12 月下旬、第 75 巻第 1 号から開始される予定で、紙媒体での誌面ではオンラインジャーナルで公開された論文の情報(タイトル、著者名等)等を掲載し、読者の便宜が図られることとなっている。「会報」部分について、会員にとって有益な情報等の紹介や地方獣医師会の取組みの紹介など、内容のさらなる充実を図るため、今後取り上げてほしい情報などの意見等を事務局へ寄せてほしいとのことであるのでよろしくお願ひしたい。

**豚熱等家畜伝染病予防対策に関する件**について、養豚生産者団体である日本養豚協会では、ワクチン接種を適期に確実に接種し安定的な養豚生産を図るとともに、早期の清浄化を目指すことを目的に「豚熱対策検討委員会」が設置され、2 回にわたる検討の中で、参加者から家畜の飼養衛生管理の義務を課された農場衛生管理者等への当該ワクチン接種を容認すべき旨の提案がなされているとのことである。日獣は、当然、当該接種は、現状では獣医師法

に違反し、これを容認すると小動物臨床等の他業種でも同様の問題が発生し混乱を招く等の意見陳述を行ったということであるが、先般、地方獣医師会あて本ワクチン接種の支援対応が可能な獣医師リストの取りまとめ等が依頼されたが、その際「豚熱ワクチン接種支援等について」の照会も行われた。今回、その結果が公表され、地方獣医師会からの回答結果を見て驚いた。地域・期間を限定してとのことではあるが、獣医師以外の者にも接種を認め、獣医師の独占業務の例外扱いを許容すると回答された地方会が意外と多くあったことである。日獣は、ワクチン接種業務は獣医師に限られた診療行為であり、豚熱ワクチンの予防接種等を円滑に実施する体制を構築することは、獣医師及び獣医師会の責務であることを再認識するとともに、都道府県から知事認定獣医師として支援要請等があった場合は、速やかに対応できるよう「豚熱ワクチン接種可能獣医師支援リスト」の更新、充実に努め、引き続き地域防疫体制の構築に尽力するよう求められた。当然のことであろう。まだまだ問題が山積しており、令和3年7月、(公社)岐阜県獣医師会から豚熱に関する委員会の設置と課題への検討が依頼されたことを受け、新たな委員構成により第2回豚熱等家畜伝染病対策検討委員会を速やかに開催し、取組が進められることとなった。

**マイクロチップ指定登録機関に関する件**については、システム開発、狂犬病予防法とのワンストップサービス等について鋭意検討が進められているとのことであるが、具体的な話になると種々難問が山積しているようである。今後示される情報を注視してまいりたい。

**愛玩動物看護師法の施行に向けた対応に関する件**については、令和4年5月1日の完全施行に向けた準備が進められており、農林水産省・環境省連名により、インターネット上に「愛玩動物看護師法の施行に向けた検討状況について」公開されているので、参考にさせていただきたい。

**令和3年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会**に関する件については、対面開催を見送り、オンデマンド配信によるオンライン開催とすることが決定され、配信期間は令和4年1月21日(金)～2月4日(金)が予定されている。

**第21回アジア獣医師会連合(FAVA)大会の開催に関する件**については、大会開催のアナウンスが開始されたところ(日獣雑誌9月号にチラシ折込み配布済み)であるが、参加登録について第一次事前登録を本年10月末にはホームページ上で開始する予定とのことである。当初は5日間の開催が予定されていたが、3日間に短縮され、2022年11月11日(金)～13日(日)、ヒルトン福岡シーホークにて開催されることとなった。コロナ禍のため海外からの参加者が多く見込めない可能性があるため、できる限り多くの国内の獣医師の参加登録を促したく、各地方獣医師会に対して登録目標獣医師数を示して協力をお願いしたいということである。ちなみに本会は35名の参加目標数値が示されている。この大会は、第40回日本獣医師会獣医学術学会年次大会との連携開催が予定されている。本会は開催地九州に一番近い獣医師会として、できる限りの協力をさせていただきたいと思っているところである。

**最後に**、平成23年10月から事務局長として活躍してこられた古賀俊伸事務局長が退任され、新事務局長として駒田逸哉現事務局次長が10月1日付けで新事務局長に就任されることになった。

古賀先生は山口大学卒ということもあり、本会には特に親身になって指導していただきました。今までのご支援・ご教授等に深く感謝を込めてお礼を申し上げ、健康にご留意の上、今後ますますのご活躍をお祈りします。なお、新しく就任される駒田先生には動物保護管理協会ご在任中からお世話になっており、今後とも引き続きご指導・ご鞭撻を賜りたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

以上日獣の動きについて書かせていただきました。本会会員の皆様には、年度の後半の事業の円滑な実施に向け、引き続きご協力をお願いします。

## 獣医師・山際大志郎・衆議院議員の経済再生大臣就任を祝う

山口支部 中間 實 徳

(山口大学名誉教授・東亜大学獣医看護学コース客員教授)

ニュースで、獣医師の山際大志郎・衆議院議員が経済再生大臣に就任されたのを知り、誠におめでたく存じます。山際議員は神奈川県出身で、山口大学獣医学科(獣医解剖学研究室)を平成7年(1995年)に優秀な成績で卒業された後、東京大学大学院博士課程へ進学された獣医学博士であります。

衆・参両議院でただ一人の獣医師です。愛玩動物看護師法制定には大変ご尽力を戴き、日本獣医師会・日本動物看護職協会・全国動物保健看護系大学協会・全国動物教育協会合同の記念祝賀会(令和元年8月)には出席して頂きました(山口県獣医師会会報第700号)。

山際大臣には健康にご留意され益々のご活躍を祈念申し上げます。



山際経済再生大臣

## 新入会員紹介

### はじめまして



はじめまして。この度山口県獣医師会に入会させていただきました米津悟です。今年の4月から新規採用で岩国健康福祉センター食肉検査課に配属されました。基本的には水曜日を除いて週に4回ほど周東食肉センターにて、と畜検査を行っています。最初はやる事が多く難しく自分には上手く検査ができるかどうか不安の連続でしたが、優しい先輩方の協力もあり最近は何とか一人前とは言えないなりに多少の役には立っているのかなーと思えるようになりました。自分が毎日検査するような国産の良いお肉は買ったことがありませんが、いつか家族に食べさせてあげたいと思います(笑)。私は山口大学共同獣医学部出身で解剖学研究室に所属していました。そのため牛の解剖を行ったり、組織切片を作って染色して顕微鏡で細胞を観察したり、時にはPCRを行っていました。今のと畜検査の仕事でも、実際に牛の臓器を見て、場合によっては切片を作り染色したりPCR検査を行います。大学でやってきたことと似ていて非常に役に立ちました。大学でちゃんと研究してきて良かったと、この時ほど思ったことはありません。牛の解剖には慣れていたはずでしたが、それでもやはり毎日何十頭もの牛たちが、目の前で殺されるのを見ると辛いものがあります。自分にできることは些細なことですが、毎日牛さんたちに感謝を忘れずに生きることだと、この仕事を通じてさらに感じるようになりました。

私の地元は広島で大学入学の時に山口に引っ越してきました。山口は自然豊かで特に海が綺麗です。趣味の釣りをするにはもってこいの場所で、なぜ地元

岩柳支部 米津 悟  
(岩国健康福祉センター)

の広島に帰らずに山口に残ったのかということ、まさにこの釣りのためです。北の方に行けば日本海があり南の方に行けば瀬戸内海がある。さらに色々な漁港から島に渡れるフェリーが出ている。釣り好きの私にとっては興味が尽きません。最近では大学の釣り好きの友達と萩の大島というところに泊りで遠征にも行きました。大量のお酒と食べ物を買って、昼間からお酒を飲みながらひたすら海を眺め釣りをする。離島だけあって本島とは比べ物にならないくらい大きなイカやハマチやカンパチが釣れます。釣った魚はその後、友達と一緒に捌きまた夜には宴会(笑)。最高の休日となりました。仕事を始めてからはお金を貯めてシーカヤックを買いました。これで沖に出て2キロはありそうな大きなアオリイカが釣れました。あまりのイカの大きさと力強さにカヤックが沖に引っ張られるのを感じながら、約5分間の格闘の末に見えたイカの姿とイカ墨の量、そしてなんとか網ですくいあげた時の興奮とドキドキは一生忘れることはないと思います。釣りという趣味は死ぬまで続けていきたいですし、将来は島でのんびり暮らしたいです。釣り好きの人や、やったことないけど興味があるという方はぜひ声をかけて下さい。

大好きな釣りの話ばかりになってしまいましたが、仕事の方もすっかり頑張っていくつもりです。今の職場では、と畜検査関係の仕事が多いため特に今後は食品衛生についてもしっかりと勉強し、同じ県の職員の先輩や同期の方々に色々教わりながら精進するつもりです。まだまだ勉強不足で皆様にはたくさんのご迷惑をおかけすると思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお祈りします。

### はじめまして

長北支部 久世 恭平  
(萩健康福祉センター)



はじめまして。この度山口県獣医師会に加入いたしました久世と申します。本年度4月より山口県職員として萩健康福祉センター(保健所)

で勤務をしています。

出身は岡山県で、山口大学を卒業しました。大学では感染免疫学研究室に所属し、今話題のPCRで猫の内在性レトロウイルスについて研究していました。大学を卒業後、長崎で約7年間県職員として食肉衛生検査所とと畜検査業務、保健所で食品衛生と動物愛護業務に従事。現在は妻の故郷である下関市に住んでいて、萩まで片道約1時間30分かけて通勤しています。山口県に入庁してから保健所へ配属されたので前職の経験を活かせるのはラッキーでした。

なぜ出身地でもない長崎へ向かったかということ、学生時代に何度か遊びに行ったハウステンボスと長崎バイオパークに魅了されてしまったからです！どちらも年間パスポートを購入し、ほぼ月1ペースで足を運んでいました。ですが上司や同僚にこの話をする度に笑われてしまいました。長崎の人はほとんど遊びに行かないそうです。

実はハウステンボスは中学の修学旅行で行ったことがありましたが、当時は寂れていて楽しくありませんでした。HISが経営を立て直してからは様々なイベントが開催され、たくさんの感動を与えてくれました。また、イベントが無くとも園内に咲き誇る四季折々の花を眺めながら散歩するだけでも十分楽しめます。バイオパークは動物との距離が近いのが最大の魅力です。多くの動物に触りながらエサやりできるのです！特にお気に入りにはミーアキャットですね。ミーアキャットの展示は直接触れないようになっているのですが、時々展示スペースから脱走したミーアキャットが数匹園内をお散歩していることがあり、運が良ければ近づいてきて触らせてくれるのです！滅多に出会えないお散歩ミーアキャットを見つければ、それだけで来た甲斐があります。山口に引っ越してきてから半年ほど経つので、久しぶりにバイオパークへ遊びに行きたい気持ちが強くなってきました。早くコロナが終息して自由に掛けられるようになるといいですね。

さて、現在は妻、4歳の長男、2歳の長女と4人で下関の山間部に住んでいます。周囲はヒトよりも

野生動物の方が多く暮らしていて、夏はホタルが飛び交うのんびりした地域です。ですが子供たちと散歩して行けるくらいの範囲に公園や遊具がないのが難点です。長崎にいる時は2人とも砂遊びが好きだったので、ホームセンターで材料を揃えて2か月くらいかけて自宅の庭に砂場を作成しました。2m×1m程の木枠を組み、30cm程地面を掘って木枠を入れて20～30kg程の砂を入れる、という結構な力作です。ですが2人とも全然遊んでくれません。どうして遊ばないの？と聞くと、「あんまり砂場好きじゃないんだ」との返事が。前はあんなに砂場で遊んでいたじゃ

ないか、と虚しくなっていました。悔しいので、今度は滑り台とブランコがある大型遊具を妻と一緒に作成しようと計画しています。転んでも大丈夫なように人工芝もすでに準備していて、もう少し涼しくなったら作業開始予定。今度こそ子供たちに遊んでもらえるものを作るぞ！と意気込んでいます。

私生活のことばかり書きましたが、本業も忘れておりません。これからも山口県の食品衛生・動物愛護に微力ながら貢献していきたいと思っております。皆様、今後ともよろしくお願い致します。

## はじめまして

豊浦支部 石村 麻莉乃

(下関農林事務所畜産部)



今年度より山口県獣医師会に入会させていただきました石村と申します。出身は下関市です。

下関西高校を卒業後、山口大学工学部に進学しましたが獣医師になりたいという夢を諦めきれずに一年次で中退、麻布大学を再度受験し1年越しの入学を果たすことができました。麻布大学では家畜衛生の研究室に所属し、乳房炎原因菌と免疫細胞の観点から治療に有用な乳房内洗浄液についてin vitroでの研究をしておりました。大学にはホルスタインが6頭ほど飼養されており、そこで初めて家畜に触れることとなりました。大学卒業後は縁あって佐賀県庁に入庁し、畜産試験場で家畜育種の担当となり、種雄牛や後代検定牛について多くを学ばせていただきました。毎週の精液採取や精液凍結を主に実施していましたが、後代検定牛の出荷や、選抜されなかった直接検定候補牛の去勢をしてからの出荷は、仕方がないこととはいえ感慨深いものがありました。しかしこちらも一年で退職し、今年度より山口県庁に入庁、西部家畜保健衛生所に勤務することとなりました。少し遠回りではありましたが、地元である山口県の畜産に携わることができ、とても気が引き締まる思いです。

趣味らしい趣味は恥ずかしながらありませんが、休みの日はパン屋やケーキ屋によく足を運んでいます。最近のオススメはケーキ屋ですと、下関市竹崎町にある「PÂTISSERIE M」です。フランス料理店がプロデュースしたテイクアウト専門スイーツ店とのことで、上品な甘さの生クリームを味わうことができ

す。個人的なお気に入りにはフルーツサンドです。パン屋ですと下関市小野にあります「西洋菓子ちからや」です。こちらもケーキ屋なのですが、パンも販売しており、タイミングが良ければ焼きたてパンを購入することができます。建物は閉校となった小学校の校舎が利用されており、外観からして"映え"なのもオススメポイントです。余談ではありますが、パンや甘いもののお供には「TAKADA COFFEE」のコーヒーを飲んでいきます。苦味や酸味が強すぎず、とても飲みやすいためお気に入りです。長門市の道の駅センザキッチンにも出店しており、休みの日に長門市へ外出することも増えました。Acoop長門店に売られている長門産牛肉もとてもおいしいです。皆様も下関市や長門市へ足を運んだ際には是非お立ち寄りください。他にもパン屋巡りに飽き足らずホームベーカリーでのパン作りや家庭菜園、犬の世話をすることで土日をお過ごしすることが多いですが、このコロナ禍においても不自由のない時間の過ごし方ができています。

現在社会人二年目ですが、昨年度勤めた佐賀県畜産試験場では経験することになった農家巡回や検査、事務作業などたくさんの業務をしなければならず、とても忙しい日々を過ごしています。まだ分からないことも多々あり、いろいろな方にご迷惑をおかけするかもしれませんが(現在進行形でご迷惑をおかけしているかもしれませんが)、一人前になれるよう日々精進します。今後ともよろしくお願い致します。

## 令和3年度産業動物講習会のご案内

下記のとおり開催します。皆様の参加をお待ちしています。

○開催日時：令和3年11月20日(土) 13時30分～15時30分

○演 題：「牛の蹄管理の実際」

○講 師：酪農学園大学 阿部紀次教授

○開催方法：

(1) 講義：オンラインによる講義

(2) 受講：受講者が ①山口大学共同獣医学部獣医棟4階大講義室における聴講 又は ②オンライン(Webex)による参加 のいずれかを選択

※新型コロナウイルス感染症の発生状況によっては、会場を変更する可能性があります。

○参加申込：準備の都合上、11月10日(水)までに事務局に連絡をお願いします。

なお、オンラインで参加される方は、メールで申し込んでください。

## リレー随筆

### 学会旅行記

この度同じ動物病院で勤務しております、末田先生よりバトンを受け取りました、シラナガ動物病院の酒井治と申します。私は2013年に山口大学を卒業した後、兵庫県と山口県防府市の動物病院に勤務し、その後山口大学大学院に入学しました。今年3月に大学院を卒業し、4月よりシラナガ動物病院にて勤務しています。6年勤務した病院から職場が変わり、慣れないことも多いですが、新しい職場には末田先生を含め大学時代の後輩も多く、また他のスタッフにも支えられ、毎日楽しく仕事をしています。

四年間の大学院生活ですが、獣医分子診断治療学研究室（公式には獣医臨床病理学研究室）に所属し、主に犬の腫瘍に対する新規治療法について研究してきました。平日は大学での実験と、大学病院での二次診療や夜間診療への参加、週末は防府市の動物病院での診療…と、臨床も研究も盛りだくさんの4年間でした。もちろん大変なこともたくさんありましたが、その分得るものも多かったと思います。そんな中での楽しみの一つは、学会などでいろんなところへ行けるということでした。旅行にもなかなか行けない時期が続きますが、また旅行を楽しめるようになることを信じて、これまで学会などで行って楽しかったところを紹介しようと思います。

国内で一番印象に残っているのは岩手で、ここへは学部生のときの学会で行きました。観光地がたくさんあるので、学会期間の多くを観光に費やしたのを覚えています。ここでの一番のおすすめは龍泉洞で、日本三大鍾乳洞の一つです。山口の秋芳洞もその一つで、こちらはその全長や内部の空間の広さなどが有名ですが、龍泉洞の見どころは、世界有数の透明度を誇る地底湖です。ドラゴンブルーとも呼ばれている幻想的な青色で、ライトアップもあり非常に綺麗でした。もう一つのおすすめも有名ですが、本場のわんこそばです。いくつか有名店があるようですが、そのうちの一つに研究室のメンバーで挑戦しました。全員100杯をクリアして、記念の手形をもらいました。また、岩手では地元の漁師さんが「サツパ船」という小型の磯船で沿岸を案内してくれるツアーも

徳山支部 酒井 治  
(シラナガ動物病院)



スラッガーミュージアム  
大きなバットが目印です

あるのですが、遊覧コースには震災の爪痕も残っており、漁師さんから震災当時の話を聞くことも出来ます。

海外では、アメリカのケンタッキー州ルイビルで開催されたがんの学会に参加したときに、会場の近くを少しですが観光することができま

した。ここは競馬や野球のバットが有名で、それらの博物館があります。学会の懇親会もダービー博物館で行われ、これもルイビルの名産であるウイスキーが振る舞われていました。

今は学会もセミナーもほとんどがオンラインとなり、参加しやすく勉強の機会が大幅に増えた一方で、いろんな方と出会うことができ、その場所での楽しみがある従来型の学会が非常に懐かしく思います。コロナが終息して以前のような学会開催が普通に出来るようになることを楽しみにしています。

次はシラナガ動物病院院長、白永伸行先生にお願いいたします。



チャーチルダウンズ競馬場

## 帝揚羽蝶採集譚

長北支部 笠井 亨 浩  
(秋農林事務所畜産部)

9月に入り、茹だるような夏の暑さもひと段落着いたように思います。盛夏の都市部で見られる風景に、街路樹のクスノキの梢をアオスジアゲハが飛び回る様がありますが、皆様も毎年のように目にして

いると思います。黒地に綺麗なブルーのラインという装いは欧米の人たちにも印象強いようで、昨年世界中でヒットした対馬を舞台にしたゲーム「Ghost of Tsushima」では制作者がよほど気に入ったのか、島

中をこの蝶が乱舞しています。元々南方系の種ということもあり、昨今の気候の温暖化にともなって勢力を増しています。

さて、皆様はこの蝶に近縁な「ミカドアゲハ」という蝶はご存じでしょうか。アオスジアゲハを少しゴージャスにした蝶なのですが、“帝”の名を冠する和名がよりやんごとないムードを醸しています。前述のアオスジアゲハよりも更に南方系の蝶で、本州の日本海側では山口県がその分布の北限と言われていています。瀬戸内では岡山県、太平洋岸では三重県辺りを東にその分布域を広げていますが、昭和18年には当時分布の北限とされていた高知市内の生息地が国の特別天然記念物に指定されています。食草はモクレンの仲間のオガタマノキ（稀にタイサンボク）、オガタマノキが珍しく、寺社地に集中して分布するためおのずとミカドアゲハも寺社地で見られることが多いようです。本州では生息地が少なく希少なミカドアゲハですが、南西諸島では普通に見られます。熱帯・亜熱帯の渓流域では水辺に蝶が大挙して押し寄せて給水する“集団給水”という現象がしばしば見られます。本州でもカラスアゲハ等で同様の現象を見る事ができますが、南西諸島、特に西表島ではミカドアゲハの大規模な集団給水を見ることができます。約20年前に西表島に滞在して釣りや昆虫採集をした際の目標にこのミカドアゲハがありました。集団給水がみられる渓流域は国立公園に指定されている為、採集方法は炎天下の林道でただひたすら蝶が来るのを待ち続けるというものでした。アオスジアゲハの仲間は飛翔速度が速い事で知られますが、ミカドアゲハは更に速く、捕獲のチャンスは数時間に一度蝶とすれ違う一瞬ということで、まるで野球のバッティングのような緊張感がありました。連日空振り

続きで一匹も取れないまま日数だけ経っていき、巨大台風が接近する中でのラストチャンス何とかものにすることが出来、1匹を持ち帰るに至りました。この採集旅行で得た蝶の標本は今でも大切に保管しています。逃げるように西表島を後にし、石垣島で台風をやり過ごして帰りましたが、世の中には台風を追いかけて蝶を取る迷蝶マニアというジャンルの方々がいます。南の島の蝶が台風に乗って移動するというのは聞いてはいましたが、実際に台風の目に差し掛かった時に海面を蝶の群れがひらひらと飛んでいるのを見たのはその時が初めてでした。虫たちの分布拡大の本能には驚かされるばかりで、ミカドアゲハも年々東へ東へとその勢力を拡大していますが、気候変動を移す鏡でもある彼らの挙動には複雑な気持ちを抱いてしまいます。気候変動に関しては内燃機関車の販売停止等、世界中で大胆な目標が掲げられていますが、自分でできる事から生活を見直すようにしていきたいと思っています。



## 日本近代獣医学教育の開祖 時重初熊先生墓碑掃苔供養の集い

日本近代獣医学教育の祖、特に「馬の仮性皮炎」研究の第一人者として、当時国際的にも知られた故時重初熊先生（1859～1913年、東京帝国大学教授（獣医学博士・農商務省獣疫調査所長兼任等）は、旧徳山市戸田のご出身です。

本会主催・徳山支部後援により、2年に一度、時重先生の墓碑掃苔供養を行っています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症を考慮し、開催時期をずらして次のとおり、先生の生誕月（11月）に実施することとしました。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

○日 時：令和3年11月14日（日） 午前8時30分 現地集合

○場 所：周南市戸田山 蔦ヶ迫共同墓地

国道2号線を防府から徳山方面へ向かい、椿峠をくだった最初の信号（苔台入口バス停車前）を右折して旧道に入り、車で2～3分

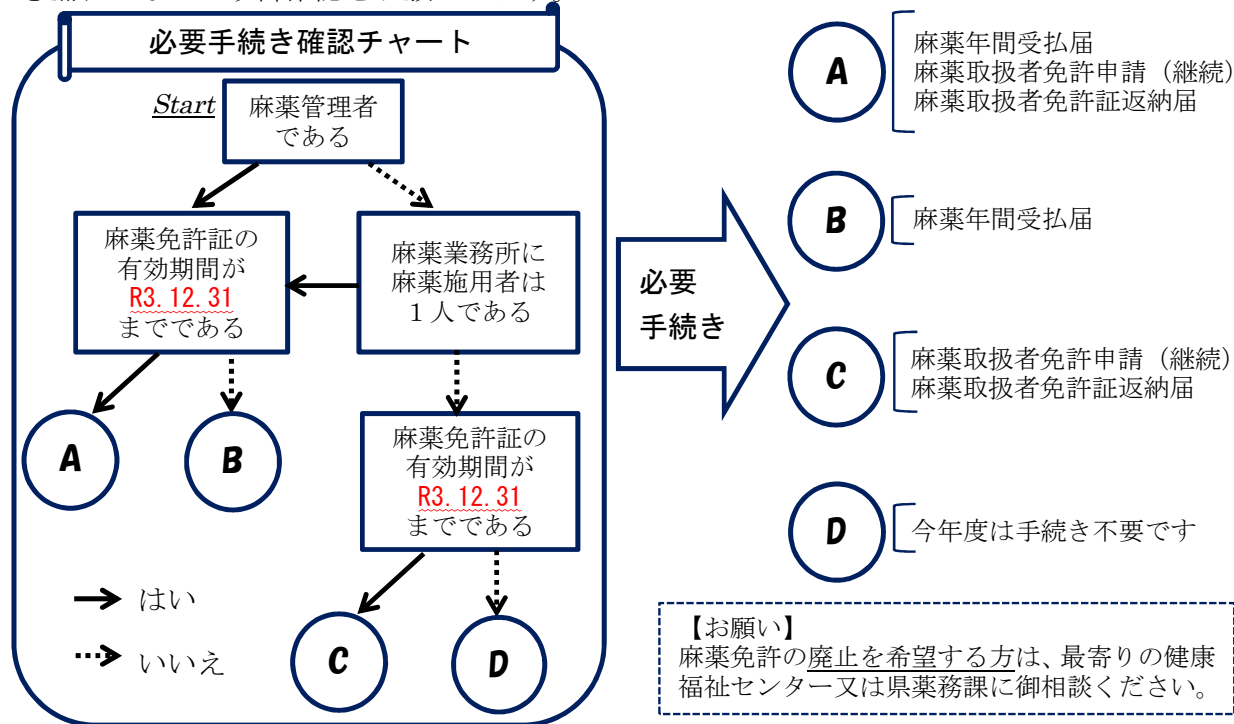
○申 込：11月8日（月）までに、本会事務局に連絡してください。

<麻薬管理者・施用者向け>

**【重要】麻薬免許証をお持ちの方へ～手続きの御案内（山口県薬務課）～**

麻薬取扱者は、10月から1月にかけて所定の手続きが必要となります。以前は、郵送等にて御案内しておりましたが、**現在は郵送での御案内はしていません。**

必要な手続きは免許種別や免許取得年等によって異なります。以下のチャートを参照し、手続き漏れのないよう御確認をお願いします。



**【各手続き詳細】**

麻薬年間受払届	麻薬取扱者免許申請（継続）	麻薬取扱者免許証返納届
<p>◆対象者 チャート中 <b>A</b>、<b>B</b> 該当者</p> <p>◆提出物 ・麻薬年間受払届 2部 (正本1部、副本1部)</p> <p>◆提出期限 令和3年11月30日</p>	<p>◆対象者 チャート中 <b>A</b>、<b>C</b> 該当者</p> <p>◆提出物 ・麻薬取扱者免許申請書 1部※ ・診断書(1ヵ月以内に作成されたもの) 1部※ ・(変更時のみ)麻薬保管設備等図面 1部※ ・手数料(県証紙) 4,300円分 ※下関保健所に提出時は2部(正副1部ずつ)</p> <p>◆提出目安時期 令和3年11月30日まで</p>	<p>◆対象者 チャート中 <b>A</b>、<b>C</b> 該当者</p> <p>◆提出物 ・麻薬取扱者免許証返納届 1部※ ・有効期間が満了した麻薬免許証 1部※ ※下関保健所に提出時は2部(正副1部ずつ)</p> <p>◆提出期間 令和4年1月1日～17日 (年始は1月4日から開庁します)</p>

**【留意事項】**

- 各様式は、山口県薬務課のHP又は最寄りの健康福祉センターで入手してください。山口県薬務課のHP内「麻薬関係手続きについて（既免許者向け）」のページには、記載例も掲載しています。(http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15400/mayaku/keizoku.html)
- 提出窓口及び新免許証受け取り窓口は、管轄の健康福祉センター又は下関市立下関保健所です。開庁時間（平日8:30～17:15(12月29日から1月3日までを除く)）にお越しくください。提出は郵送も可。
- 新免許証は12月13日(月)以降に受け取りにお越しくください。**ただし、御提出の遅れや不備事項があった場合には、新免許証のお渡しが遅くなる場合があります。

※麻薬業務所が防府市内にある方へ  
12月16日(木)13時～16時のみ、防府支所での新免許証受け取りが可能です。防府支所での受け取りを希望する場合は、麻薬取扱者免許申請書（継続）の余白部分にその旨を記載してください。

**★お問い合わせ窓口★**

山口県薬務課 麻薬毒劇物班 083-933-3018  
各健康福祉センター(岩国、柳井、周南、山口、宇部、長門、萩)  
※下関市内の事業者の方は県薬務課へお問い合わせください

## おゆずりします — 獣医療機器 —

下関支部 山 縣 純 次

開業以来70年間の臨床生活を、今年7月末を以て終りました。厚くお礼を申し上げます。大変お世話になりました。今は静かに時が流れています。

永年使ってきた獣医療機器があります。まだまだ十分使用できます。

例えば、昇降式ステンレス診察台、同じく手術台、テレビレントゲン、歯科用レントゲン、高熱高压滅菌消毒器、歯科ユニット（ORA-VET・モリタ製作所製）、消毒盤台（移動式・ステンレス製3槽）、注射アンプルケース（9段）、X線自動現像器、入院ケー

ジ ステンレス製3段（上中下各5、合計15）、及び同ケージ（上3、中3、下2）。

外科器機約100点位、機械戸棚（ステンレス）、縫合糸ケース（3）、猫用手術台、超音波消毒器、その他まだまだあります。

お持ち帰りいただければ、さしあげます。一度ぜひ見て下さい。尚、ご来院は火・木・土・日の午前11時～午後3時とし、ご来院時ぜひ前もってご連絡ください。以上よろしくお祈いします。

（下関市岬之町 8-13 090-9419-4111）

### 山口県獣医学会の発表映像について

今年度の山口県獣医学会は、県の新型コロナウイルス集中対策期間中の開催となりました。

このため、参加できなかった会員の皆様向けに、発表者の協力を得て、学会当日の発表映像を本会ホームページの会員専用コーナーに掲載しました。

- ・掲載期限：10月31日（日）
- ・掲載区分：午前の部（産業動物部門・獣医公衆衛生部門）を2グループ、午後の部（小動物部門）を3グループに分けて掲載しています。
- ・質 疑 等：発表内容についての質疑や助言等については、講演抄録を確認していただき、直接発表者とお話ください。

### 告知

### 令和3年度第1回支部長会議

- 日 時：令和3年10月14日(木) 13時30分～15時
- 場 所：山口県獣医師会館 2階会議室

### 令和3年度第3回理事会

- 日 時：令和3年10月28日(木) 13時30分～15時
- 場 所：山口県獣医師会館 2階会議室

### 事務局だより

9月2日 ・山口県農林水産部・環境生活部訪問（県庁）  
9月10日 ・獣医師会館点検  
9月21日 ・獣医学術中国地区学会発表映像作成（獣医師会館）  
9月22日 ・日本獣医師会第4回理事会（東京 リモート参加）

9月27日 ・自民党県連政策聴聞会（ユウベルホテル松政）  
9月28日 ・会報編集委員会（獣医師会館）  
9月2日、16日 ・事業推進会議

次回編集委員会 10月26日(火) 13:30～

山口県獣医師会会報 第725号 令和3年10月10日（毎月1回発行）

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)  
電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554  
e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp  
http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 上 田 晋 平  
発行責任者 田 中 尚 秋  
印刷 コロニー印刷